

フランス生まれのニュースポーツで、木製の小さなビュット（標的球）に、金属製のボールを投げ合い、より近づけることによって得点を競い合うゲームである。ルールが簡単で、どこでも、だれでも取り組みやすいスポーツであるが、たった1球で逆転するチャンスもある等、技術と作戦を必要とする奥の深いスポーツである。

## 1 用具と場所

- (1) ビュット  
木製で直径3cm前後の標的球
- (2) ボール  
金属製で直径7.05cm～8.00cm、重さ650g～800gの球
- (3) 場所  
4m～15m位の広さ（土または芝のグラウンド）があればできる。

## 2 ゲームの進め方

- (1) ボールの投げ方（図1）（図2）  
直径35cm～50cmのサークルの中から、手のひらで握ったボールを下向きにして、アンダーハンドスローでビュットに向けて投げる。  
（投げるときの姿勢は立っても、しゃがんでもよい。）
- (2) プレーの仕方

基本的対戦方法とボールの打ち数（表1）

ア 先攻チームが、投球サークルからビュットを投げる。（6m～10m以内の距離）

イ 先攻チームが、第1球目をビュットに近づけるように投げる。

ウ 次に、後攻チームが先攻チームのボールよりビュットに近づけるように投げる。

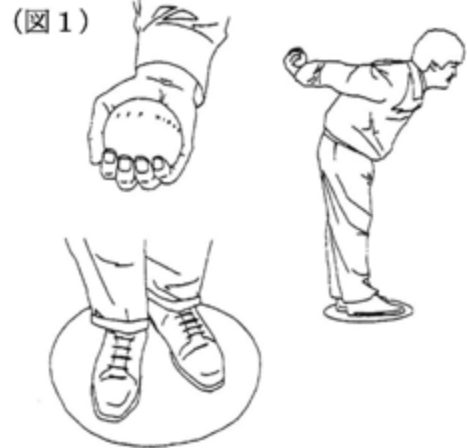
エ 両チームが1球ずつ投げ終わった時点では、ビュットに近い方のチームが勝っていることになる。

オ この後の投球順は交互でなく、負けているチームが、味方チームのボールが相手ボールよりもビュットに一番近くなるまで（勝つまで）投球を続ける。（勝っているチームよりビュットに近くなったら、今まで勝っていたチームは負けていることになり、交代してボールを投げる。）

カ このように負けているチームがボールを投げ、持ちボールをすべて投げ終わったら、勝っているチームも残りボールをすべて投げる。

キ ボールを投げるときは、ビュットに当ててはじきとばしたり、すでに投げられている相手のボールに直接当ててはじきとばしたり、味方のボールに当ててビュットに近づけたりすることができる。

ク 両チームがボールを全部投げ終わったとき1セットが終了し、得点を数える。



（表1）

対戦方法	1人の持つボール数	チームの持つボール数
1対1（シングルス）	3個	
2対2（ダブルス）	3個	6個
3対3（トリプルス）	2個	6個

### 3 勝敗と得点の数え方

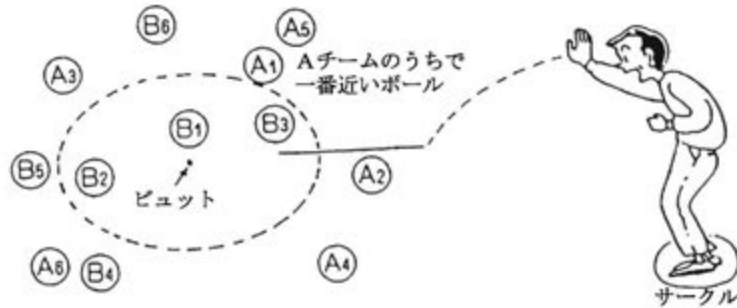
(1) セットごとの勝敗の決定

ピュットにボールを最も近づけたチームを勝ちとする。

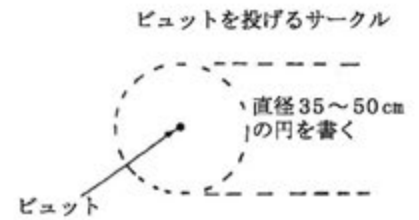
(2) 得点の数え方 (図3)

負けたチームのうち、ピュットに一番近いA<sub>1</sub>ボールより、さらにピュットに近いチームのB<sub>1</sub>、B<sub>2</sub>、B<sub>3</sub>のボールが得点となる。ボールが1個1点なので、この場合はBチームの得点は3点、Aチームの得点は0点となる。

(図3)



(図4)



(3) 次のセットの開始 (図4)

勝ったチームは、セット終了時のピュットを中心にサークルを描き、そこからピュットを任意の方向へ投げ、第2セットを始める。

(4) ゲームの勝敗

何回かセットを繰り返し、13点先取したチームが勝ちとなる。

### 4 その他の主なルール

(1) ピュットは、サークルから6m~10m以内の距離に投げる。それ以外の場合は投げ直しをする。

(2) 投げたピュットが、障害物及び禁止地域から1m以内の場合も投げ直す。

(3) ピュットを投げて3回とも無効のときは、相手チームに投げる権利が移る。

(4) 投げたピュットには、必ずマーキングをしなければならない。(風や地面の傾斜による移動、審判員や選手等により偶発的に動かされた場合、元の位置に戻す。)

